

2020年7月28日

関係各位

イー・ライフ・グループ株式会社  
代表取締役 小川義行

## 定期的な通所サービスの利用は 高齢者の「健康維持・改善」にとって重要

コロナ禍自粛による長期的な通所控えが与える影響について緊急調査を行いました

新型コロナウイルス感染症の拡大予防のために、短時間デイサービス※1の利用を自粛する高齢者を対象に、短時間デイサービスを欠席することによって生じる影響に関する緊急調査を行いました。その結果、コロナ禍自粛による長期的な欠席により身体機能が悪化していたことが明らかになりました。

先般の COVID-19 の流行拡大により、デイサービスは経営に大きな影響受けました。中でも特に短時間デイサービスでは利用者の欠席者数が一時的に急増致しました。イー・ライフ・グループ株式会社 代表取締役 小川義行 (nagomi チェーン本部代表) が顧問を務めている一般社団法人日本デイサービス協会※2(事務局:東京都千代田区、理事長:齊藤正行)では、COVID-19の蔓延による短時間デイサービスの欠席が利用者に及ぼす影響を検証するために緊急調査を実施致しましたので、その概要をご報告いたします。詳細は緊急調査報告書をご参照ください。

### ■調査対象・期間

当協会会員の短時間デイサービス利用者

2020年2月28日～6月3日の間で1週間以上欠席された方

### ■調査結果

短時間デイサービス利用者のCOVID-19の蔓延による欠席が及ぼす影響を検証する為、1週間以上欠席した利用者(計741名)のBI※3および体力測定値(握力/開眼片足立ち/CS-30※4/TUG※5)を欠席前後で比較したところ、BIおよび体力測定値(握力/開眼片足立ち/CS-30/TUG)のいずれにおいても、欠席前に比べ欠席後は悪化する傾向が見られました。BIの全項目(食事・移乗・整容・トイレ・入浴・歩行・階段昇降・着替え・排便/排尿コントロール)のうち、特に歩行・階段昇降・移乗といった相対的に大きめの動作で、悪化傾向がみられました。欠席日数が1カ月以上に及ぶと、また介護度が高くなるほど、TUGの悪化傾向は強まる結果となりました。

本調査では、欠席後にTUGが有意に悪化する傾向がみられたが、一方で、通常利用時のTUG値(直近と3か月前の比較)は、有意に改善する傾向が確認されたことから、デイサービスの利用で身体機能の維持・改善が期待されることから、COVID-19蔓延による長期欠席により身体機能は悪化したと考えることができます。

- ※1 午前と午後に(それぞれ3時間以上4時間未満、もしくは4時間以上5時間未満)、機能訓練に注力した自立支援に資するサービスを提供するデイサービス。
- ※2 一般社団法人日本デイサービス協会は、2667事業所、378法人の会員数(2020年7月現在)で運営するデイサービス(通所介護)の普及推進活動を行う団体。
- ※3 BI(バーセルインデックス)とは、ADL(日常生活動作)の評価法の一つ。身辺動作と移動動作の全10項目(「食事」「車いすからベッドへの移動」「整容」「トイレ動作」「入浴」「歩行」「階段昇降」「着替え」「排便コントロール」「排尿コントロール」)について、各項目を 0・5・10・15 点で評価する。点数が高いほど良い状態であることを示す。
- ※4 CS-30 (Chair-stand test)測定は、椅子に座った状態から、30 秒間にできるだけ多く起立-着座動作を繰り返す評価法。回数が多いほど良い状態であることを示す。
- ※5 Timed Up & Go Test(TUG)では、椅子に深く座った状態から始め、椅子から立ち上がり、無理のない速さで歩き、3m先の目印で折り返し、再度椅子に座るまでに要した時間を測定する。短い時間であるほど良い状態であることを示す。転倒・骨折の危険性を早期に発見し、適切なリハビリテーションを行うことに繋げることが出来る。

#### 【共同調査研究】

日本デイサービス協会 研究部会

京都大学大学院医学研究科医療経済学分野 介護研究グループ

#### 【出典】

「新型コロナウイルス蔓延による短時間デイサービス欠席者への影響に関する緊急調査報告書」

一般社団法人日本デイサービス協会、京都大学大学院医学研究科医療経済学分野,2020,07,22